

学生が考える

—学生にとって「よりよい授業」に必要な5つの要素—

「もっと大学で学びを深めたい」「もっと成長したい」

こんな思いを持つ学生が、大学の授業をアップデートするために、学生主体で何かをしたいという思いから、このプロジェクトはスタートしました。

学生へのインタビュー・授業観察・私たちの大学授業の経験を踏まえながら、学生にとって「何が」よい授業なのか、「どうして」よい授業なのかということについて、学生主体で考えました。これを「学生にとって『よりよい授業』に必要な5つの要素」としてまとめ、教職員に向けて学生の思いを伝えたいと思い、このレポートを発行することとなりました。私たちも一学習者として、学習者中心の教育を実現するための強い「思い」を、このレポートを通じて届けたいと思います。

1. 心理的安全性を 保証する

安心して学びに向かうための
良い関係性・雰囲気づくり

先生と学生、学生同士の良い関係性・良い雰囲気づくりは、よりよい授業の土台です。

誰もが気兼ねなく、安心して自分の考えを言うことができ、異なる意見や思いを受け入れる雰囲気をクラス内につくること、つまり心理的安全性を保証することが必要です。

2. 双方向性を 取り入れる

先生と学生の
コミュニケーション

一方向的に授業を進めるのではなく、学生の意見や考え、思いなどを聴き、リアクションを見ながら授業を進めてほしいです。

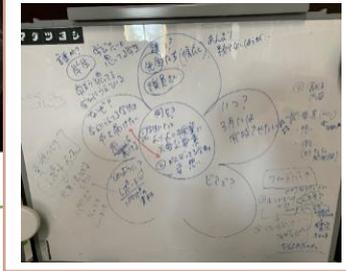
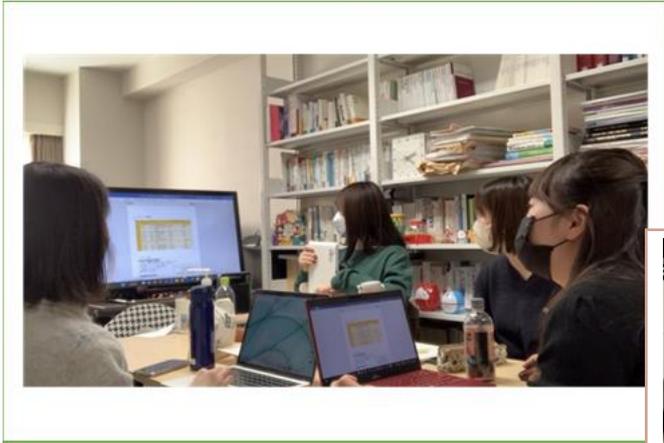
先生が学生に問いかけたり、学生に考える余地を与えたりすることによって、学生は授業への参加感が増し、思考が刺激されます。授業に、学生をどんどん巻き込んでください。

3. 多様性を 取り入れる

学生同士の
コミュニケーション

他の学生との学び合いによって、学生は新たな視点や気づきを得ることができ、自分の中で学びを深めることにつながります。

他人のことを知り、受け入れようとすることは人間関係を築く上での素地となります。この素地の育成のためにも、授業は、いろいろな人と交流し、視野を広げることができる絶好の機会です。



4. 思考をする場面 を組み込む

学生が自ら考えを
深める時間

インプットの時間だけでなく、学生が頭や心、身体を使いながらアウトプットをする時間を授業のどこかでつくってほしいです。

講義内容の詰め込みや先生のしゃべりだけでは、学生の思考は止まります。

学生が自分一人で思考をする時間や、他の人と交流しながら思考を深める時間が必要です。

5. 授業展開を 工夫する

学生の反応を考慮した上
での授業内容と展開の吟味

「よりよい授業」のためには、授業で取り扱う内容と展開が吟味されていることが重要です。

授業の流れが順序立ててあり、論理的・具体的・実践的な授業内容であれば、学生の理解が進み、知的好奇心が刺激されます。思考の質も高まります。

授業内容と展開の吟味の際にも、学生の反応や理解度を考慮していただきたいです。

本レポートのフルバージョンも
ぜひご覧下さい

MOCA(Meet On Creative Academy)は、学生の学びと成長について学生自身が考え、行動に移したいという想いから結成したユニットです。

学生のよりよい学びのために、教職員や他の学生などさまざまな人と関わりながら活動をしています。

Created by



★作成者: 奥村百香 井上優 中谷汐里 岡本碧梨
顧問: 山田剛史(関西大学 教育推進部 教授)